

地域と福祉を心でつなぐ

# NETWORK

# ネットワーク こぶし

2024

10

通巻41号

令和6年10月発行

## トピックス

- お互いに繋がっている 安心感  
～緊急のサインもけっして見逃さない こぶし訪看の覚悟～
- お聞きします 企業の皆様のビジネスケアラーのお悩み  
～こぶし園が支える仕事と介護の両立サポート～
- 歩んでいきます ご利用者様の「食」とともに  
～こぶし園 栄養課の心がけているもの～

こぶし園 インフォメーション



## お互いに 繋がっている 緊急のサインもけつして見逃さない こぶし訪問看護の覚悟

### 安心感

こぶし訪問看護ステーション

管理者 主任 樋口 昌美



### こぶし訪問看護ステーションの紹介

#### ●開設に至った経緯

高齢者総合ケアセンター「こぶし園」が、訪問看護ステーションを開設したのは平成9年4月でした。

こぶし訪問看護ステーションの最大の特徴は「こぶし園」の理念に基づいた訪問看護事業所であることです。昭和57年100床の特別養護老人ホームからスタートした「こぶし園」は、その後、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、介護保険制度が開始するより前から、在宅サービスの充実を図りました。デイサービス、ショートステイ、24時間365日の訪問介護等です。介護サービスの充実を図りながら、実感したことは「高齢者の生活を支えるためには医療も必要不可欠である」という現実でした。高齢者の在宅生活は、予防対策をしたとしても、体調の変化は避けて通れません。また、人生の最期を自宅で過ごしたい方もおられます。介護と医療の両方がなくては、高齢者の生活はサポート出来ないので、こぶし園は医療機関ではないが、常勤の医師はおりません。ですが、開設当時から看護師は複数

人在籍しておりましたので、訪問看護開設基準である2・5人以上の人員を確保し、平成9年4月1日の開設に至りました。

実は開設以前から、ショートステイの看護師が退所時の送迎に付き添い、ご自宅へ伺う場面があったと聞いています。ショートステイでご利用者をお預かりしている中で、継続した医療的サポートの必要性を実感する場面が何度もありました。当時の長岡市内にはまだ訪問看護事業所は少なく、適切なケアの継続が難しい状況であったため、ご利用者の健康維持・改善に必要と判断し行っていたそうです。このように活動のベースがすでにあった中での開設でした。

#### ●今日までの当ステーションのあゆみ

1997年 (平成9年) 開設  
2000年 (平成12年) 介護保険指定事業所認可  
2006年 (平成18年) グループホームとの事業所連携開始  
短期入所生活介護事業所への中重度加算対応開始  
2008年 (平成20年) 訪問看護ステーション しなの サテ

ライト化(※)  
2012年 (平成24年) 在宅医療連携拠点事業(厚生労働省委託事業)への参加  
2013年 (平成25年) 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業において連携開始  
2021年 (令和3年) 新型コロナウイルス感染症者宿泊療養夜間オンコール対応



※こぶし園が地域にサポートセンターを開設していく中で、こぶし訪問看護も一時、4か所の訪問看護ステーションを開設しましたが、この年「こぶし第4訪問看護ステーション」をサテライト事業所に変更し現在の体制に至りました

このように、在宅療養者が住み慣れたご自宅や地域で暮らし続けられるよう、サポートして参りました。

#### ●在宅医療連携拠点事業とフェニックスネットワーク

在宅療養者が増大する一方で労働人口は減少する事をふまえ、2012年 厚

生労働省は在宅療養者支援において「連携」をキーワードに研究事業を行いました。全国で105か所(そのうち訪問看護ステーションは7か所)が選ばれ、新潟県からは2か所、そのうちの1か所が当ステーションでした。

【在宅医療連携拠点事業における5つのタスク】

- ①多職種連携の課題に対する解決策の抽出
- ②在宅医療従事者の負担軽減の支援
- ③効率的な医療提供のための多職種連携
- ④在宅医療に関する地域住民への普及啓発
- ⑤在宅医療に従事する人材育成

医療と福祉の連携を模索する上で、こぶし園にはその両方があり、しかも在宅生活を支援する多様なサービスが既にありました。ただ、先に述べたように、こぶし園は医療機関ではないが、訪問看護以外はすべて介護サービス事業所でした。医療連携の研究、検証をすべく、長岡市医師会、長岡市歯科医師会、及び、地域



で開業されていた在宅医3名にお声かけし、ご協力を頂きました。検証した内容は、「タブレット端末を用いた情報共有を事業所間で連携させた場合、在宅ケアにおいて有効であるのか」でした。当時、既にこがし園の訪問介護事業所では、事業所内のみで情報共有が可能な連携ツールを使用し、効率よく訪問介護を行っていました。これを事業所の垣根を越えて連携できるシステムへ転用した場合、どうなったか？ 結果は、非常に有効性を実感出来ました。看護師の訪問日ではなくても訪問介護スタッフの入力内容を確認することで状態の把握が可能となり、訪問看護時の状態を入力しておくだけでケアマネージャーや主治医、他連携サービスに確認してもらえたからです。その中でも特に効果的だったのは、画像の共有です。皮膚トラブルを発見した際、タブレット端末で撮影した写真を同時に確認出来るので、医師への報告、指示確認、他事業所と経過を共有したい場面などで、以前より迅速に行えました。在宅連携拠点事業は単年度事業であった為、この年で終了となりましたが、有効性が確認できたこのシステムが構築されるよう、翌年の2013年からは長岡市医師会が中心となり「フェニックスネットワーク」の運用が開始となりました。当初、在宅サービス間のみで連携していましたが、

「ご自宅での療養生活を  
訪問看護が支えます」



その後介護サービスを利用していない方も登録可能となり、更に救急隊員も確認できるようにするなど新たな展開となっています。

(注) フェニックスネットワークでの連携には、必ずご本人またはご家族様の同意を得て行っております。

### ●災害対応の経緯

当事業所は2004年10月23日に発生した中越地震を経験しました。当日出勤者がその日の訪問を終え、退勤しようとして身支度を整えていたところに経験したことのない大きな揺れがありました。建物内はすぐに停電となり、電話も使用できませんでした。幸い、建物の被害はなく、併設施設の入居者様も皆様無事でしたが、重度なる余震と暗い室内に不安が募り、声を出される方もおられました。余震が落ち着いたタイミングで訪問看護の事業所から携帯電話と利用者名簿、訪問カバン、公用車のカギを持ち出し、それらを身に着けたまま入居者様の手を握り落ち着くの待ちました。翌日24日は、手動吸引器とペットボトルに水を入れ、安全に通れる道路を探しながら安全確認に回りました。当日中の電気復旧は困難と判断し、吸引が必要な方2名の病院搬送を手配しました。独居の方が急遽ショートステイに行かれることになり、内服等の準備を行いました。翌々日以降は、訪問宅のライフラインが未復旧だったため、事業所から保温ポットに入れ持参したお湯で洗浄処置を行いました。他

には、避難先の小学校へ行き、保健室で膀胱洗浄を行いました。その後、仮設住宅への訪問看護も数多くありました。

今年の元日、能登地方で大きな地震があり、被災された方も多くおられます。追い打ちをかけるように水害被害も起き、ニュースを見るたびに胸が痛みます。決して他人事ではありません。事業所として今出来る事、まずは災害時マニュアルを再度見直し、シミュレーションを行い、備えていきたいと思います。

### ●現状の課題

訪問看護の大きな役割のひとつに、在宅着取りの為の支援があります。超高齢社会となり「多死時代」という言葉も聞かれます。最期まで穏やかに、その方が希望される場所での時が迎えられるよう、24時間365日サポートしております。ここ数年、以前との違いを実感するようになりました。それは、介護者の生活歴の変化です。具体的には、「自宅の人が亡くなる」経験が身近になかった年代の方が介護者層に増えたという事です。最期までご自宅で過ごす事を望まれる方は多くおられます。現在訪問看護をご利用されている方には、これまでの生活歴で、往診医に診て頂きながらご家族が自宅で最期を迎える場面を経験して来られた方が多くおられます。その一方で、介護をされているご家族の年代では、病院での永眠があたりまえになった時代を過ごしています。訪問看護の活動について、もともと地域にお伝えしていかなければなら

ないと実感しております。

訪問看護は在宅生活をされておられる方のお住まいへ訪問し、必要なケアを提供しております。役割上、注射や創部の処置など、治療のための処置を多く行いますが、その際実感する事は、何よりも大事な事は「生活」だということです。生活環境がなければ、在宅療養生活は送れません。以前に比べ「生活」の支援が全面的に必要な方が多くなりました。高齢者の支援は医療と介護の両方が必要です。訪問看護が訪問先で行えることには限りがあります。家事的な生活支援サポートは行えず、また介護保険限度額を考えると、私たちが毎食後の服薬介助に行くことは現実的ではありません。地域に、どれだけ生活を支えられる資源があるのか、在宅生活が継続可能か否かを決める分岐点であると日々実感しています。住み慣れた地域で、利用したい介護サービスが受けられ、必要な医療が届く暮らしの一助となるよう、事業所スタッフ皆で今後も訪問看護の提供に努めていきたいと思えます。

加えて、地域包括ケアシステムの実現に向けて、努めて参りたいと思えます。



# お聞きします 企業の皆様のビジネススクエアラーのお悩み こぶし園が支える仕事と介護の両立サポート

看護小規模多機能型居宅介護大島  
管理者 業務課長 大矢 泰三



少子高齢化が進む現在の社会において、働きながら家族などの介護を行う「ビジネススクエアラー」と呼ばれる人が増加、2030年には318万人まで増えると国は推計しており、企業にとっても、仕事と介護を両立できる環境の整備が課題となっています。

長岡福祉協会は地域に根差す社会福祉法人として、介護利用者の皆様へのサービス提供から一歩進め、これまでに蓄積した介護サービスのノウハウと資源を活かし、「介護離職ゼロ」に向けた取り組みを行う企業と従業員の皆様へのサポートを行うことにより、地域社会の発展に少しでも貢献できることを願い、この事業を行っております。

サポート内容についてはスキームに示すSTEP3及びSTEP4となります。

**【STEP3】** 介護に直面する前の従業員の皆様へのサポート

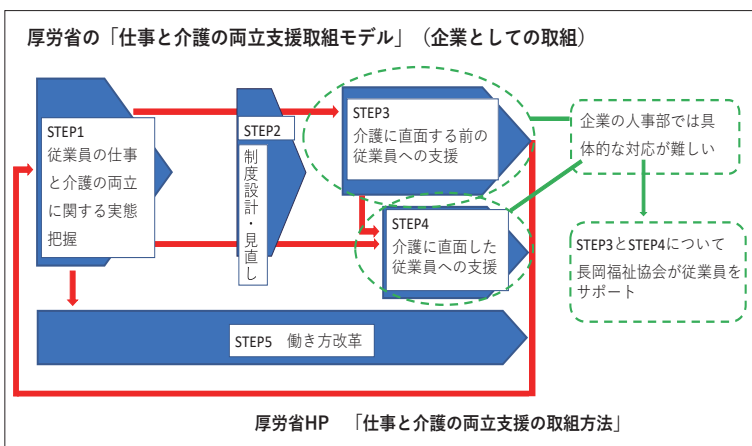
①従業員の皆様に向けたセミナーの開催（年2回）

②従業員の皆様からの個別相談の受付

**【STEP4】** 介護に直面した従業員の皆様へのサポート

①従業員の皆様からの個別相談の受付

お一人おひとりの現状に最も



合ったサービスについてアドバイスします

セミナーの内容につきましても事前に打ち合わせを行い、先方のご意向を確認しながら提案・検討をします。説明の中では具体的な相談窓口やサービスの費用などもお伝えしていますので、「いざ介護が必要となった場合でも焦らずに対応ができれば」「何か困ってもいつでも相談できるのが安心です」と参加された皆様からご評価をいただきました。

これからも企業、従業員の皆様の介護への悩みが少しでも軽減し、安心してお仕事に取り組めるようお役に立ちたいと願っております。本件についてご関心がございましたら、ぜひ一度お問い合わせください。

## 【お問い合わせ先】

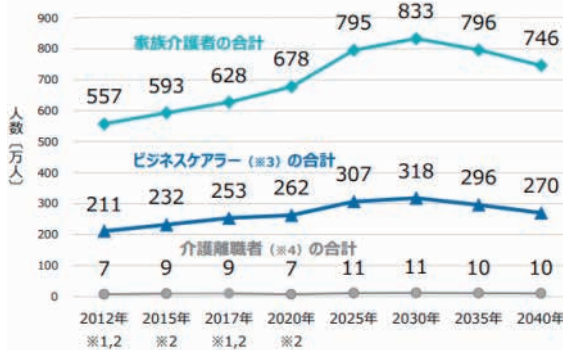
社会福祉法人長岡福祉協会

高齢者総合ケアセンターこぶし園 担当：大矢・廣川

☎0258-46-6610



家族介護者・ビジネススクエアラー・介護離職者の人数の推移



歩んでいきます

ご利用者様の「食」とともに

「こぶし園 栄養課の心がけているもの」

サポートセンター喜多町喜多町厨房

係長 吉澤 信恵



こぶし園栄養課の紹介

●こぶし園栄養課

「その人が築き上げてきた暮らしを支える」というこぶし園の理念のもと、自分の家族、友人が利用したいと思うサービスの提供、ご利用者それぞれの人生を支え、その終末期までサポートする。私たち栄養課は、食事の面からご利用者の生活をサポートしています。

こぶし園は、市内に19か所のサポートセンターがあり、その中で厨房のあるサポートセンターは10か所になります。

センターにより異なりますが、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護の1日3食、デイサービスの昼食、3食365日毎日お弁当を配達する配食サービスなど、1日あたり30〜180食、食数に応じて3〜6名の管理栄養士、栄養士、調理師、調理員で調理しています。

「食事」食べるという事は、生活していく上で大切な事であり、栄養を摂り身体の機能を維持す



るだけでなく、ご利用者にとって食事の時間は「楽しい時間」のひとつとなっています。

旬の食材や行事に合わせたメニューなどで

季節を感じていただき、麺の日、パンの日、選択メニューなどで変化をつけ、ご利用者の楽しみ、生活の潤いを感じていただく事が大切であると考えています。

また、そのままの状態で召し上がる事のできない方には、刻み食、極刻み食、トロミ食、ゼリー食などその方に合わせた形態での提供、管理栄養士による状態の把握、それに応じて調理を行う調理師とチームワークを大切にきめ細やかな食事の提供を心がけています。

●栄養課としての取り組み

日々の食事ももちろんですが、敬老会は栄養課にとって大切にしている行事の一つです。普段はセントラルキッチン方式を用いているため二次調理が主な業務となっておりますが、敬老会は栄養課全体



でメニューの決定、調理、普段とは違う折り箱での提供を行っています。これは、こぶし園開設当初からのこだわりでご利用者に感謝の気持ちをこめて調理し

お祝いの席に華を添えさせていただいています。



●食の第三者評価

地域へ向けた活動として食の第三者評価を行っています。これは、地域の皆様に各サポートセンターの食事を試食、評価していただく事を目的としています。コロナ禍では「家族や地域の方との会食は控えていただいておりますが、

今年に入り入居者のご家族や地域の民生児童委員の方にお越しいただき、皆さんと一緒に会話をしながらお食事を召し上がっていただく事が出来ました。「彩りも味付けも良かった」「お皿に色合いがあるともっといい」など沢山の「意見」感想をいただきました。また、近隣地域の

の状況などについても情報交換ができた大変良い機会となりました。

●地域活動としての芋煮会

崇徳厚生事業団の地域共生事業の一環として地域との交流を持つ事を目的として、「芋煮会」が行われています。

昨年より、田宮病院、長岡療育園、桐樹園・桜花園、長岡崇徳大学、こぶし園の5チームによるコンテスト形式での開催となり、こぶし園でも各サポートセンターから代表としてベテランから新人の4名を選出して参加しています。

芋煮は山形県の郷土料理で、里芋、牛肉、しょうゆ味が基本ですが、各チームで味、食材など工夫を凝らした芋煮を出品しています。

昨年のコンテストでは、こぶし園は「塩、だしにこだわったゆず香る塩味の芋煮」で見事優勝しました。今年も、11月3日に開催の予定で、二連覇に向け選出された4名により昨年以上の芋煮を目指してメニュー検討を行っているところです。

この様に、さまざまなお食を通じてサポート、交流を続けていきたいと考えています。

「こぶし園の食事はおいしい」と言っていただけるよう、栄養課職員一丸となって日々の食事提供を行っていきたいと思います。

## こぶし園 インフォメーション



こぶし園からの『繋がり』  
ふだみですとすくすく動き出した地域交流

2023年5月に新型コロナウイルスが5類感染症となり、こぶし園の各サポートセンターでも地域との交流（地域啓発活動）を再開致しました。今回は、コロナ禍でも継続して行っていた活動、新たに始めた活動の一部をそれぞれご紹介いたします。

### ○日越小学校3年生福祉体験

日越小学校の「総合的な学習」の一環で、3年生の福祉体験をこぶし園職員が担当させて頂くようになり約10年が経過しました。当初から、



こぶし園の川西エリアの事業所職員が毎年担当し、コロナ禍においても感染予防対策に注意しながら実施してきました。そして、2年前より、福祉は高齢者だけではないという事で、障がい者担当の「相談支援センターふかさわ」（分室サンスマイル）職員が加わり、昨年から、パーソナルサポートセンターの職員も一緒に活動してくれるようになり、今年は7/5（金）小学3年生91名を対象に、職員15名で実施しました。内容は毎年小学校の要望に合わせて考えていく事にしており、今年も①福祉講座・クイズ②車椅子体験③見えない体験を行いました。事前に先生から伺っていた通り、車椅子体験を喜んでくれた子ども達が多く「車椅子が必要な人を見かけたら助けてあげたい。」と頼もしい言葉も聞くことが出来ました。

当日、子ども達から『福祉は普段の暮らしを幸せにすること』と習うと聞きました。この体験が、福祉に関わる人や仕組みに触れたり、自分や家族また地域の幸せを考えるきっかけになることを願っています。

### ○川崎小学校3年生福祉体験

サポートセンター川崎は、セ

ンター内に地域交流スペースがある為、地域の方からセンターに来ていただき活動することがほとんどでした。しかし、感染症の重症化リスクが高い高齢者施設ではなかなか再開に踏み切れなかった為、考え方を変え、職員が地域に出ていく活動から始めることとし、地域や学校に働きかけを行ったところ、川崎

小学校から「3年生の福祉体験」に協力してもらえないかとの話をいただきました。令和6年3月に新たな活動として「川崎小学校3年生福祉体験」の授業を一緒にやることとなり、58名の児童を対象に、川崎・美沢・けさじろブロックの職員10名で①車いす体験②難聴体験③福祉講座・クイズを行いました。車いす体験では、福祉用具のシルバーサポート様から新しい車いすを3台ご持参いただき、子供達からも「もっとやりたかった」との声も聞かれ大好評でした。普段何気なく見ているエレベーターの正面の鏡の意味や白杖SOSなどについても学び「知ってる!!」「見たことある!!」などと反応も良

く楽しく学んでいる姿が見られ嬉しく思いました。今回の体験や反省を生かし、毎年バージョンアップしな



がら継続していけたらと思います。

今回は、2例とも小学校での活動紹介となりましたが、中学校、高校、町内会・・・様々な場面での活動も再開しております。新たなご要望等がございましたら、こぶし園各サポートセンターまでご連絡ください。

## 編集後記

こぶし園の歴史と共に介護の考え方の移り変わりを私自身も感じていきます。私は両親の介護は出来ませんでした。近い将来私自身が介護される立場になります。時代の移り変わりを知り、自分の家族の状況に合った介護のし方、され方を考える上で参考になるような情報提供が出来るよう今後も広報委員一同日々精進して参ります。